□■広がるバンコク都市部■□

～進むバンナー周辺の大型開発～

こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィス神谷です。

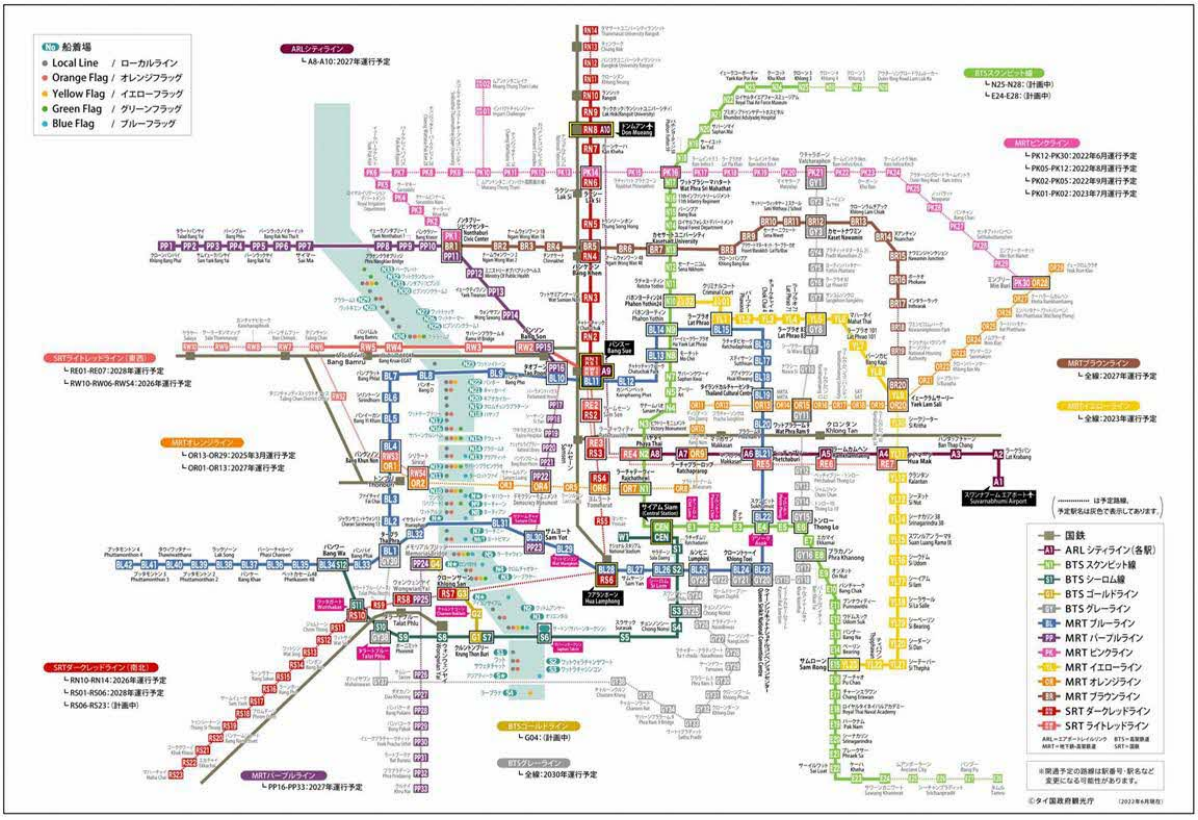
コロナも開けてタイには観光客も戻り、併せて日本からビジネスのご出張でいらっしゃる方も増えてきました。特にコロナの間に中止・延期される展示会も多かったのですが、そうした展示会も今年は順調に開催されています。特に 2022 年 9 月には長い間リニューアル工事中だったバンコク中心部（アソーク地区）のクイーンシリキットコンベンションセンターもリニューアルオープンし、活況を呈しています。

しかし、島根県の皆様になじみが深いのは METALEX や Medical Fair Thailand、Subcon Thailand など製造業やヘルスケア関連の展示会が開催されるバンコク東側、隣のサムットプラカーン県に隣接するバンナーエリアにある BITEC という展示場ではないでしょうか？展示会への出展・視察などで訪れたご経験のある島根県企業の方もいらっしゃるかと思います。

（←写真）出所：BITEC ホームページ

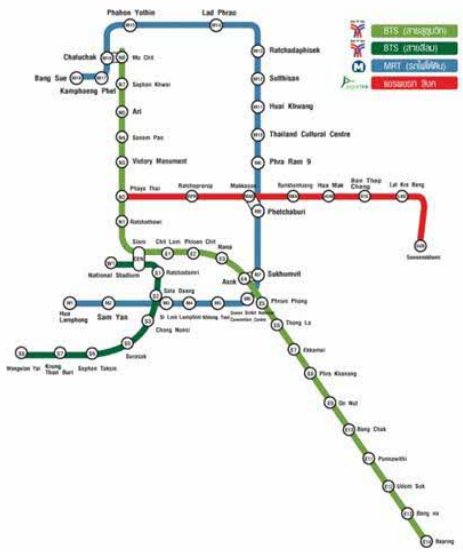
バンコクでは北側に国鉄の新たな始発駅となるバンスー中央駅がオープンしたり、レッドライン・イエローラインというモノレールの新たな路線が稼働したり、ピンクラインという路線も 2024 年には開業するといったようにこの 5 年の間に鉄道網が著しく発達しました（次ページ地図参照）。建設の遅れこそあれ、東西南北の移動をより便利なものにしています。

■2023 年バンコク路線図



出所：タイ観光庁

■2017 年バンコク路線図　出所：LIVING＋NOMADO



この二つの路線図を見比べていただくだけでも、バンコクのインフラ整備の勢いを感じていただけると思います。ただし、これだけ鉄道網が発達しても、高速道路を整備してもバンコク都内の渋滞が一向に解消されないのは甚だ疑問です。この解決には幹線道路の整備、Uターンの仕組みの変更、手動信号からの脱却などまだまだ取り組む課題は多く存在します。

都市開発が進む中、新たに注目されているエリアが先に申し上げたバンナーです。BITEC 展示場自体も現在床面積を広げる新たな建物の工事を敷地内で行っていますが、BITEC の横を走るバンナートラート通り沿いに今後 5 年ほどの中で実現予定の大型プロジェクトや、バンナーとスワンナプーム空港をつなぐ新たなライトレール路線の建設が予定されています。いくつかの代表的なプロジェクトを以下にまとめました。

＜①バンナー～スワンナプーム空港をつなぐライトレール建設＞

出所：バンコク都ホームページより

計画当初は 2029 年開業を予定していましたが、コロナ禍を経て第 1 フェーズ（バンナーからタナシティまでの 12 駅）が 2030 年開業、その後タナシティからスワンナプーム空港までの 2 駅開業となりました。このライトレールとグリーンライン（ヘビーレール：BTS スクンビットライン、アソークやサイアムなどバンコク中心部に向かう路線）およびイエローライン（モノレール）が接続し、乗り換えが可能となります。開業した暁には、日本から展示会でご出張の際の移動が便利になる路線です。

＜②BANGKOK　MALL＞

小売大手ザ・モール・グループが旗艦プロジェクトとして建設する商業施設です。投資額は 500 億バーツ（約 2000 億円）で 2025 年に完成予定です。床面積も 120 万㎡と ASEAN 最大規模になる予定です。場所は BITEC 展示場の横を走るバンナートラート通りをはさんだ向かい側になります。

写真は完成予想図ですが、ここはショッピングモールのみならず、世界クラスのアリーナ（スタジアム）である「バンコクアリーナ」を敷地内に擁しています。16,000 席のスタジアムで、さまざまなイベントを開催することも可能です。

出所：The Mall Group ホームページ

＜③Forestias＞

不動産開発大手 MQDC による巨大プロジェクトです。面積 63.7 万㎡に高層コンドミニアム 3 棟のみならず、低層の高級コンドミニアム(1800 万バーツ～、約 7200 万円～)、湖を囲む邸宅（数億バーツの見込み）、5 つ星ホテル、オフィス、商業施設、スポーツ施設、病院などを擁して世界的デザイナー監修の元、自然を取り込んだ街創りを行っています。既に病院などは建設済み、2023 年末から順次オープン予定です。

出所：The Forestia ホームページ

＜④MEGA　City＞

SF ディベロップメントが 2012 年に大型商業施設 Mega Bangna として開業しており、北欧の家具大手イケアやタイのホームセンター「Home pro」、大手スーパーマーケット「Big C」「Tops」、大型デパート「Central」などが入居しています。日本の「スシロー」や「とんかつ　まい泉」をはじめ、充実したレストラン街もあり、常にタイのご家族連れなどでにぎわっています。週末には 100 万人の人が訪れる規模の施設で、今後未使用の土地 24 万㎡にホテルやオフィス、新たな商業施設の誘致を計画しています。

出所：MEGA Ctiy　ホームページ

バンナートラート通り沿いには従来からもセントラルグループのデパートや、中規模のショッピングモール、大型オフィスビル、ムーバーンと呼ばれる戸建てなどの住宅開発が進んでおり、注目エリアではありましたが、上記のような大型プロジェクトが相次ぎ、地価も上昇中です。また今後の利便性を見込んでシーロム方面からオフィスをこのエリアに移す日系企業も増えているそうです。

展示会やご出張などでバンコクにお越しの際には都内中心部だけではなく、是非こうした新たな開発エリアもご覧いただければ、タイの勢いを実感いただけると思います。

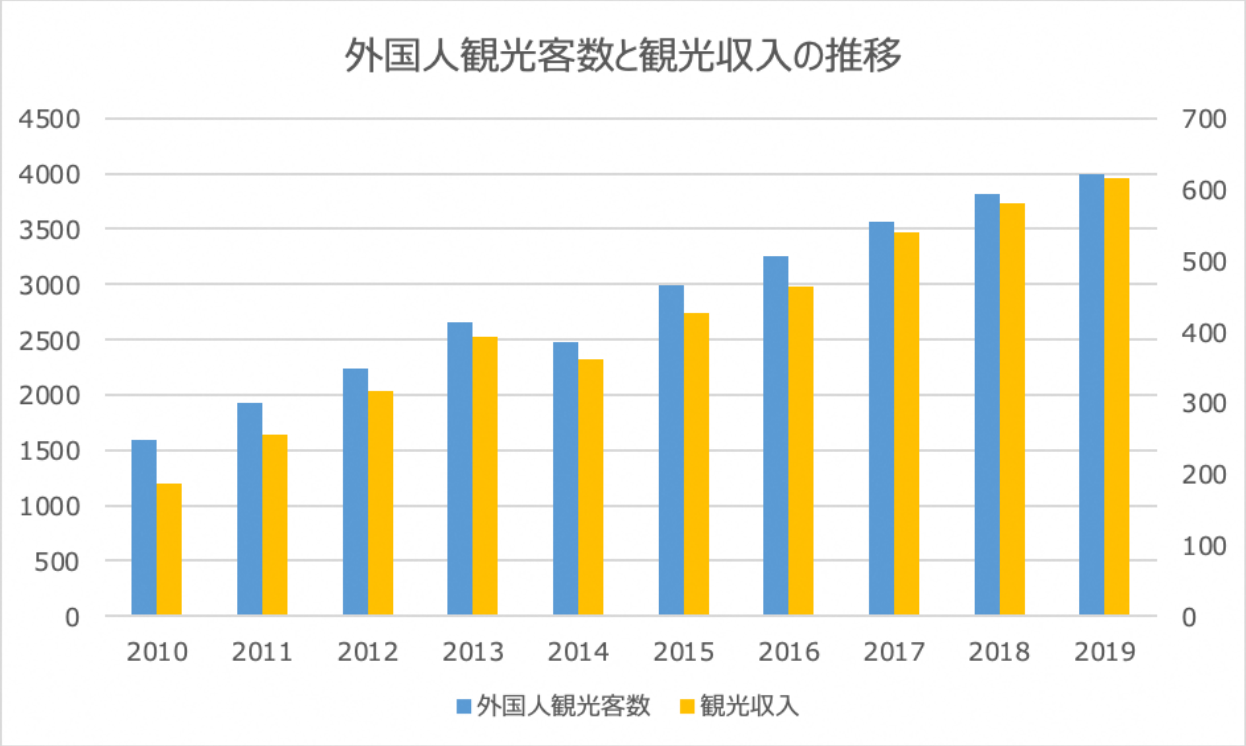
□ ■コロナショックから回復を目指すタイの観光業界■ □

こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィスの辻です。

タイは観光産業が GDP の 20%ほどを占め、コロナ前の 2019 年には海外からの観光収入が 600 億ドルを超えて世界第 4 位となるなど、タイ経済を支える大きな柱となっています。そんな観光大国のタイも、2020 年初旬からの新型コロナウイルスの世界的な感染拡大によって大きな打撃を受けましたが、2021 年 11 月から段階的に入国規制を緩和し、2022 年 7 月に入国申請システムを撤廃して以降は外国からの観光客が順調に回復し、2023 年 6 月の外国人観光客数は 2019 年同月の約 7 割にまで回復をしました。今回はコロナショックから回復しつつあるタイの観光業界についてお伝えします。

【コロナ前までのタイの観光業界の状況】

一年中温暖な気候で、美味しいタイ料理やきれいな海・山などの自然という豊富な観光資源に恵まれたタイは、ロシアやヨーロッパの観光客から冬の寒さから逃れる「避寒地」として人気がありました。また、比較的安い物価や移動時間の短さなどから、日本をはじめ、韓国や香港など同じアジア域内からの観光客にも人気が高い観光地でした。特に中国人観光客からの人気は高く、国内の急激な経済発展と共に中国人観光客の数も激増しました。



出典：タイ観光・スポーツ省

このグラフは、コロナ前 10 年間のタイの外国人観光客数と観光収入の推移を表したものです。クーデターが発生した 2014 年を除いて 10 年間ずっと右肩上がりで増加が続き、2010 年と 2019 年を比較すると、外国人観光客数で約 2.5 倍、観光収入で約 3.2 倍もの規模に拡大をしました。その大きな要因として考えられるのは、先ほども述べた通り中国人観光客の増加が挙げられます。順調な経済成長を背景に、2000 年代後半から海外へ旅行に行く中国人が増え始め、比較的物価が安いタイは特に人気が高く、またタイで撮影された中国映画「ロスト・イン・タイランド」のロケ地としても人気を博しました。

«国別観光客数トップ 10»

2010 年				2019 年			
順位	国名	人数	割合	順位	国名	人数	割合
1	マレーシア	2,047,175	12.8%	1	中国	11,138,658	27.9%
2	中国	1,132,267	7.1%	2	マレーシア	4,274,458	10.7%
3	日本	980,424	6.2%	3	インド	1,961,069	4.9%
4	韓国	805,179	5.1%	4	韓国	1,880,465	4.7%
5	英国	760,249	4.8%	5	ラオス	1,856,762	4.7%
6	インド	746,214	4.7%	6	日本	1,787,185	4.5%
7	ラオス	718,377	4.5%	7	ロシア	1,481,837	3.7%
8	オーストラリア	702,921	4.4%	8	シンガポール	1,150,024	2.9%
9	シンガポール	654,342	4.1%	9	米国	1,136,210	2.8%
10	ロシア	643,839	4.0%	10	香港	1,090,121	2.7%

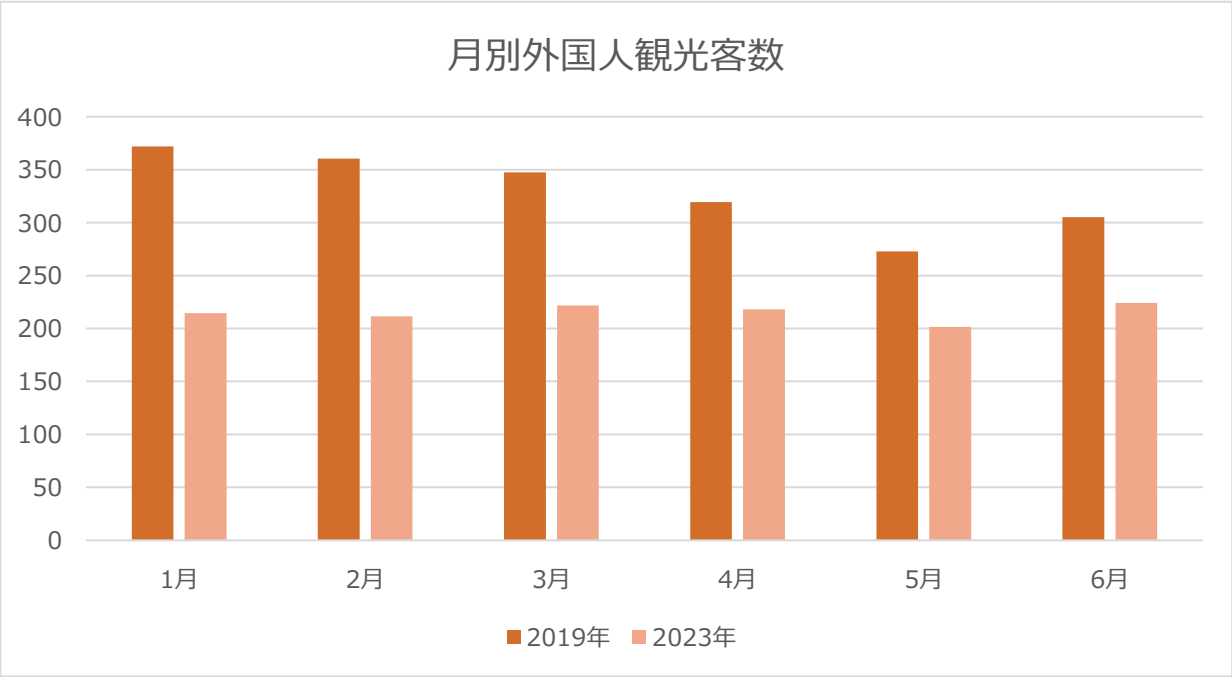
出典：タイ観光・スポーツ省

上の表は 2010 年と 2019 年の国別観光客数のトップ 10 を、人数と外国人観光客数全体に占める割合を示したものです。全体的に増加している傾向にありますが、中国はこの 10 年間で約 10 倍まで増加して 1 位となり、外国人観光客全体に占める割合も 27.9%と非常に高い割合を占めるまでになりました。その一方で、中国人観光客のマナーなどの問題も浮上し、破格のツアー料金で中国人経営のホテルや土産物店などを中心にまわる「ゼロ元ツアー（ゼロドルツアー）」では、地元民の手元にお金が落ちないなど、受け入れるタイ側から不満の声も上がっていましたが、それでも増え続ける中国人観光客の影響力は大きく、各観光地には中国語の看板が多くみられるようになりました。

【コロナショックを乗り越えて】

2019 年に 4000 万人に迫っていたタイの外国人観光客数ですが、2020 年 4 月にロックダウン（都市封鎖）を宣言し、海外からの入国を厳しく制限した影響で 2020 年の観光客数は 670 万人まで大きく減少し、2021 年には 41 万人とコロナ前の 2019 年と比べて 100 分の 1 にまで落ち込んでしまいました。2020 年の経済成長率は前年比-6.2%と 1998 年のアジア通貨危機以来の大幅なマイナス成長となり、タイ経済は大きな打撃を受けました。観光業界も深刻な状況に陥りましたが、外国人観光客の受け入れが厳しく制限されている中、タイ政府は日本の「Go To Travel キャンペーン」や「全国旅行支援」のような国内旅行の支援策を次々と打ち出し、地方の観光産業を支えるべくタイ人の国内旅行の振興に注力しました。

世界的にコロナワクチンの接種が進んだ 2021 年 10 月、ワクチンの規定回数接種や PCR 検査陰性などを条件とした「タイランドパス」の制度を発表し、強制隔離なしでの外国人観光客の受け入れを再開しました。その後、段階的に入国条件の緩和が進み、2022 年 7 月には「タイランドパス」の制度を廃止、2023 年 1 月にはワクチン接種や PCR 検査陰性の証明も不要となり、条件なしでの入国が可能となりました。時を同じくして中国でも 2023 年 1 月にゼロコロナ政策を撤廃したため、再び多くの中国人観光客がタイを訪れるようになりました。



出典：タイ観光・スポーツ省

このグラフはコロナ前の 2019 年と今年 2023 年の月別の外国人観光客数を比較したものです。こうしてみるとまだ完全にコロナ前の状況に戻ったとは言えませんが、それでも各月 6 割～7 割ほどに回復していることがわかります。今後、さらなる回復を目指すタイ政府観光庁は、中国人観光客向けのキャンペーンの実施や、観光客に大きな影響力を持つインフルエンサーを招いた大規模な視察ツアーなどを開催し、中国観光客の回復に特に力を入れています。

2019年上半期				2023年上半期			
順位	国名	人数	割合	順位	国名	人数	割合
1	中国	5,650,474	28.6%	1	マレーシア	2,104,714	16.3%
2	マレーシア	1,930,027	9.8%	2	中国	1,443,119	11.2%
3	インド	978,785	5.0%	3	ロシア	791,574	6.1%
4	韓国	907,387	4.6%	4	韓国	763,079	5.9%
5	ラオス	886,341	4.5%	5	インド	761,463	5.9%
6	日本	864,379	4.4%	6	ベトナム	509,743	3.9%
7	ロシア	825,556	4.2%	7	シンガポール	471,493	3.7%
8	米国	595,226	3.0%	8	米国	458,337	3.5%
9	ベトナム	525,687	2.7%	9	ラオス	408,410	3.2%
10	英国	504,754	2.6%	10	英国	403,056	3.1%
				15	日本	327,041	2.5%

出典：タイ観光・スポーツ省

今年 2023 年上半期の国別観光客数を 2019 年上半期と比べてみると、ほとんどの国が 1 割～2 割程度の減で推移していますが、中国は 4 分の 1 程度とまだまだ回復の余地が大いにあることがわかります。先ほども述べましたが、タイ政府観光庁は中国人観光客の受け入れに力を注いでおり、2023 年末までに 500 万人の中国人観光客の受け入れを目標としています。一方で日本人観光客の数は 2019 年と比べて半分以下に減少して国別順位でも 15 位まで落ち込んでおり、残念ながらタイ国内での日本人観光客の存在感は低下していると言わざるを得ません。

そんな中、先日とあるニュースが報じられ、在タイ日本人の間でも話題になりました。タイ観光・スポーツ省と日本政府観光局（JNTO）が発表した情報によると、2023 年上半期の訪日タイ人観光客数は 49 万 7700 人となり、訪タイ日本人観光客数の 32 万 7041 人を上回って初めて対日観光赤字となりました。その要因としては大幅な円安により日本人が海外旅行へ行き難くなっていることが考えられますが、依然としてタイ人の日本旅行の人気は高く、大手クレジットカード会社が行った「タイ人が行きたい海外旅行先」の調査によると、日本は 81%で 1 位となり、2 位の韓国（52%）、3 位のニュージーランド（43%）を大きく引き離す結果となっています。今後もタイから多くの観光客が日本を訪れることと思いますが、当オフィスでもタイ人向けに島根県の観光情報の発信などのサポートを行っております。ご興味をお持ちの方はぜひ当オフィスまでご連絡ください。

□■雨季に楽しむ緑の絶景カオチョンロム■□

画像：https://mgronline.com/travel/detail/9650000075587

こんにちは。島根ビジネス・サポート・オフィスのタイ人スタッフ、ニンです。

タイは雨季に入り、雨が降る日が多くなってきました。天気が崩れやすいこの時期は旅行者からは人気がありません。ですが、雨季にだからこそ絶景が楽しめる観光地というのがタイにはあります。特に現在、「カオチョンロム」という観光地は、雨季にしか出会えない美しい緑の絶景を一目見るため、多くの観光客であふれており、SNS 上でも、カオチョンロムに観光を訪れた人の写真が多く見られます。今回はそんなタイの絶景観光地、「カオチョンロム」 についてお話したいと思います。

画像：https://komasan.net/thailand/nakhonnayok/

「カオチョンロム」はどこにある？

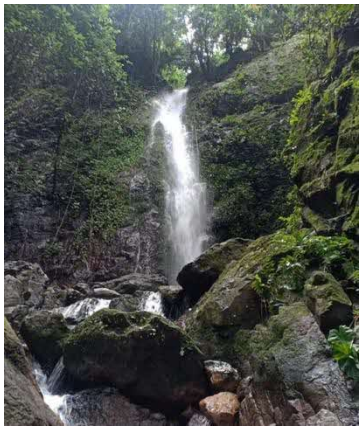
カオチョンロムは、タイの中部地方、バンコクから車で約 3 時間のナコンナヨック県に位置しています。カオチョンロムは、1 年を通して訪れることができる観光地ですが、雨季（６月～10 月）から乾季（11 月～２月）の時期であれば、カオチョンロムの景色はより美しく、天気も涼しく過ごしやすいです。特に、雨季終わりから乾季始まり頃（10 月下旬～11 月上旬）は雨に濡れて輝く緑と霧が最も美しい時期です。

カオチョンロムの魅力

画像：
https://www.paiduaykan.com/travel/%E0%B9%80%E0%B8%82%E0%B8%B2%E0%B8%8A%E0%B9%88%E0%B8%AD%E0%B8%87%E0%B8%A5%E0%B8%A1

カオチョンロムは山や川などがある、自然を満喫できる観光地です。特に、カオチョンロムの雨季にしか見られない生き生きとした緑の絶景がその一番の魅力です。また、カオチョンロム周辺には、小さな滝などのいくつかの観光スポットがあり、周辺をロングテールボートで巡るツアーを楽しむことができます。

ロングテールボートは乗り合いあるいは貸切りで乗れますが、観光客が多い５月下旬から 11 月上旬までは貸切ることができません。ロングテールボートのチケットは、7 時から 16 時頃まで販売されており、乗り合いの場合の料金は、一人当たり 200 バーツです。貸切る場合は一隻当たり 1,500 バーツ（最大７人乗り）です。ロングテールボートツアーの所要時間は 1 回あたりおよそ２時間程度です。



画像：https://www.eattourthai.com/khao-chong-lom/

カオチョンロム周辺のおすすめ観光スポット

カオチョンロム周辺には、いくつの観光スポットがありますが、ロングテールボートに乗られなければ、近づくことができないスポットもあります。それが「パーガームゴーン滝」及び「カオチョンロム滝」です。パーガームゴーン滝とカオチョンロム滝は、場所によって異なる美しさを持つので、流れに沿って複数のロケーションに行くことをおすすめします。また、滝を眺めるだけでなく、川に入って水遊びも楽しめます。

カオチョンロムへの出発前の準備

雨季は、雨に濡れた地面が滑りやすくなるので、運動靴など動きやすく履き慣れた靴で行くことをお勧めします。また、カオチョンロムの自然を存分に楽しむために、動きやすく汚れてもいいアクティブな服をご用意ください。

旅行者には敬遠されがちな雨季ですが、今回ご紹介したカオチョンロムは雨季だけの美しさが楽しめる絶景スポットです。あえて雨季のこのタイミングにタイの観光を計画しカオチョンロムを訪れてみてはいかがでしょうか。

※別紙に、年内に開催予定のタイ・インドネシア・ベトナムの展示会情報をまとめました。

サポートオフィスでは、現地で開催される展示会へのアテンドも行っております。

関心のある展示会がございましたら、お気軽にご連絡ください

担当：神谷　靖子　Yasuko　Kamiya

Address: 1 VASU1 Building, 12 FL., Room 1202/D, Soi Sukhumvit 25,

Sukhumvit Rd., Klongtoey-Nua, Wattana, Bangkok 10110

➢ タイ経済指標

項目	単位	2020	2021	2022	2023
GDP 成長率	前年比べ（%）	-6.2	1.8	2.7	2.7（3 月）
人口*	千人	68,152	68,161	69,922	70,004（5 月）
労働者の数*	千人	39,451	38,631	40,143	40,302（5 月）
失業率**	%	1.62	1.94	1.32	1.06（6 月）
最低賃金* バンコク	バーツ／日	331	331	353	353
チョンブリー		336	336	354	354
アユタヤー		325	325	343	343
ラヨーン		335	335	354	354
賃金：全国製造業の平均	バーツ	13,562	13,506	14,305	14,422（6 月）
インフレ率**	前年比べ（%）	-0.84	1.24	6.08	5.45（4 月）
中央銀行政策金利*	%	0.50	0.50	1.25	2.00（5 月）
普通貯金率**	%	0.31	0.25	0.28	0.39（7 月）
ローン金利 (MLR) **	%	5.60	5.42	5.50	6.66（7 月）
SET 指数*	1975 年：100	1,449.35	1,657.62	1,668.66	1,556.06（7 月）
バーツ／100 円**	バーツ	29.33	29.15	26.78	25.27（7 月）
バーツ／米ドル**	バーツ	31.29	31.98	35.06	34.26（7 月）
円／米ドル**	円	106.8	109.8	131.38	135.69（8 月）
車販売台数 (1 月からの累計)	台数	779,857	736,716	856,057	856,057（22 年）
BOI 認可プロジェクト	件数	1,501	1,572	1,554	1,058（6 月）
BOI 認可プロジェクト金額	10 億バーツ	361.41	511.9	618.62	377.35（6 月）

*期末、**平均